

# 令和5年度 学校評価結果

学校法人 高松学園  
幼保連携型認定こども園 慈光幼稚園

令和5年5月8日に新型コロナウイルスが感染症法上5類になりましたが、様々な感染症の流行が絶え間なく続き、学級閉鎖や登園自粛などのお願いを引き続きしなければならぬ1年となりました。それでも皆様のご協力をいただきながら、何とか年度末を迎えることができました。改めて皆様にごより御礼申し上げます。また今年度、園創立110年を迎えました。これまで園にかかわっていただいた全ての方に感謝申し上げます。

2月に、保護者アンケート結果と教職員の自己評価結果等の集計を基に、学校関係者評価委員の皆様からご意見をいただきました。ここに令和5年度の学校評価結果を公表致します。

## 1. 教育及び保育の精神

本園は、認定こども園法及び子ども・子育て支援法（平成24年法律第65号）、児童福祉法（昭和22年法律第164号）に基づいて、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとしての教育並びに保育を一体的に行い、子どもの健やかな成長が図れるよう適当な環境を与えてその情操陶冶を行い宗教的萌芽を啓培し、以ってその心身の発達を助長するとともに、保護者に対する子育て支援をすることを目的とし、次に示す事項を重視して教育及び保育を行う。

- (1) 仏教精神を根底においた、ともに育つ保育を行う。
- (2) のびやかに自己を発揮する保育を大切にする。
- (3) 子どもが自ら環境にかかわってつくりだす遊びを保育の中心におく。
- (4) 教育・保育に関する専門性を生かした保護者及び地域等への子育て支援を行う。

## 2. 教育及び保育の目標

本園は、乳幼児期における教育及び保育が、生涯にわたる人間形成の基礎、生きる力の基礎を培うものであることを踏まえ、一人ひとりの子どもが、感謝の念を持ち、生きる喜びを感得できるよう、認定こども園法第9条に示された次に掲げる目標の達成に努める。

- (1) 健康、安全で幸福な生活のために必要な基本的な習慣を養い、身体諸機能の調和的発達を図ること。
- (2) 集団生活を通じて、喜んでこれに参加する態度を養うとともに家族や身近な人への信頼感を深め、自主、自律及び協同の精神並びに規範意識の芽生えを養うこと。
- (3) 身近な社会生活、生命及び自然に対する興味を養い、それらに対する正しい理解と態度及び思考力の芽生えを養うこと。
- (4) 日常の会話や絵本、童話等に親しむことを通じて、言葉の使い方を正しく導くとともに、相手の話を理解しようとする態度を養うこと。
- (5) 音楽や身体による表現、造形等に親しむことを通じて、豊かな感性と表現力の芽生えを養うこと。
- (6) 快適な生活環境の実現及び子どもと保育教諭その他の職員との信頼関係の構築を通じて、心身の健康の確保及び増進を図ること。

## 3. 重点目標

I、生活や遊びの中で、様々な体験を通して「心情」「意欲」「態度」を培い、園児一人一人がの

びやかに自己を発揮していく姿を大切にする。

II, 保護者と保育教諭等、或いは地域社会と園が互いに連携し、協働の精神をもって子ども達の教育・保育を行うようにする。

III, 保育教諭の資質及び専門性の向上を図る。

#### 4、自己評価項目の達成及び取り組み状況

| 分野   | 項目 評価      | 評価 | 取り組み状況  |
|------|------------|----|---|
| 園の管理 | 教育・保育目標の周知 | A  | <p>昨年までは、保護者に配信・配布する以上児の「〇月の保育」（月のカリキュラム）のねらいに、その年の重点目標のいずれにあたるねらいかを掲載してきたが、今年度からは、ねらいがどのような育ちに繋がるのか、「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」のピクトグラムを表示することで、よりねらいが様々な育ちに繋がるものとして理解をいただけたことが、保護者アンケートの高い評価に繋がったのではないかと。</p> <p>職員間では、年間通してカリキュラムがその年度の園児たちに合致したものとなるよう担当学年毎に見直しを行い、反省・評価を行っていることから、どのように教育及び保育を行うべきか共通理解を図りながら、日々の保育が行えている。しかし、本園の中核となる「教育及び保育の精神」と「教育及び保育の目標」については、職員間で再確認を行う機会を設けて来なかった。毎年年度初めには、初心に戻って1年の教育及び保育を行えるよう、本園の教育方針を改めて確認していきたい。</p>   |
|      | 危機管理体制の整備  | A  | <p>避難訓練は月1度計画的に行っている。年2回行われる職員にも予告なしで行う訓練では、職員が想定していない日時に行うことで新たな課題も出てきた。課題を改善するための検討を行うことで、非常時に対応できる体制を整えるようにした。今後も職員にも予告なしの訓練を取り入れ、非常時に備えていく。</p> <p>外部からの不審者侵入などに対する安全対策をなかなか進められなかったが、今年度、正面玄関に自動施錠装置を設置したことで、園舎の完全施錠が可能となった。保護者の方々にもインターフォンを鳴らすなどご協力をいただいて安全対策が行えていることに感謝したい。寺の境内を借用していることから、門の施錠はできないが、来訪者には職員が挨拶をするなどして用件を確認している。今後も徹底していきたい。</p> <p>保育中の園児の体調やケガに関する連絡については、状況に応じてなるべく早くお知らせするよう努めているが、職員が気づかない怪我もまだあり、対応が不十分との回答が数名あった。園児全員の行動に目を向けられるよう今後も留意すると共に、初めて使うものや場所に関しては、事前に園児の行動を十分に予測し、園児と共に安全に扱える方法を考え、事故の予防、安全教育を行っていく。</p> <p>今年度から保育業務ICTシステム(以後ICTシステム)の利用を開始し、登降園時の打刻にご協力いただくことで園児の人数確認を確実にできるようになった。バス通園の園児は、園舎に入った際の打刻が保護者に届くことから、安心にも繋がっているのではないかと。</p> |

|      |                     |   |  |
|------|---------------------|---|--|
| 教育活動 | 家庭、地域、関係機関への情報発信    | A | <p>家庭との連携について、バス利用の保護者の方とは連絡帳か電話でのやりとりのみになってしまうことから、より一層の配慮が必要である。</p> <p>コロナが5類になったため今年度から地域公開行事を再開し、はなまつり、七夕、成道会、もちつきなどに近隣の高齢者の方にご参加いただき、主に年長児との交流が行えたことは園児にとってよい体験となった。これらの報告についてはホームページに掲載しているが、今回のアンケートと同時調査した「ホームページをどの程度見ているか」の回答はバラツキがあり、「まだ見たことがない」方も若干名いた。ICTシステムでお知らせするなど、ご覧いただけるよう工夫していく。</p> <p>様々な通知をデータで配信するようになったが、まだ紙媒体のものもあり、分かりにくいとの指摘があった。画像を入れるクラス便り以外はICTシステムアプリの資料室に必ず入れて確認しやすくしていく。また、紙媒体での通知を望むご家庭にも落ちがないよう配慮する。</p>  |
|      | 子育て支援               | B | <p>今年度から以上児の誕生会への保育参加は通常通りとし、給食を一緒にお召し上がりいただくようにした。また、未満児の保育参加では6月には給食の様子をご覧いただき試食までとし、2月には給食を一緒に召し上がっていただいた。参観回数は、適当との回答を90%の方からいただいている。コロナ禍から引き続き以上児の土曜参観は行わず、平日の参観に変更している。お父さん方も参観や誕生会へ来られるようになってきたことから、今後も平日に行っていきたい。</p> <p>土曜の園庭開放の利用者は少ない。在園児も砂場で親子一緒に遊んでもらうことで、お子さんが普段どんな遊び方をしているか知るきっかけにさせていただく。</p> <p>職員から保護者の方へ話をする際、保護者の立場に立って話す内容をよく熟慮し、時間を取っていただくようにすることで、保護者とお子さんの成長と今後の課題を共有し、連携体制を整えられるようにしていきたい。</p> <p>地域に向けた子育て支援事業を計画・推進している職員が数人であることから、園で行っている子育て支援事業が職員間で十分に理解されていない感がある。来年度に向けて周知していきたい。</p> |
|      | 教育課程・計画の指導          | A | <p>「教育・保育目標の周知」に記述したように、毎月学年毎にカリキュラムの検討を行っているため、共通理解が図られていると思われる。検討事項も月の反省・評価と共に記述することとなっているため、今後も3年に1度は見直しを行っていく。</p> <p>時代の変化によって変更していくべきことも出てきているが、その時期に園児にとってどのような体験や経験が必要であるのか熟慮し、代替活動を加えるようにする。</p>  |
|      | 発達段階に即した適切な乳幼児理解・援助 | B | <p>今年度も多くの職員が高評価を示した。若手の職員も、こどもたちが興味を持った遊びに取り組んでいくことができるよう、時には周囲に相談しながらクラスに合った環境構成や援助を行い、一人一人の園児が主体的にじっくりと遊んでいける状況をつくることできている。</p> <p>未満児は月齢の差が大きく、集団で保育をすることの難しさを感じてる職員もいる。今後も一人一人の発達状況を理解すると共に、一人一人の思いを理解し受け止めることで、安心して園で楽しく生活できるようにしていきたい。</p>  |

|  |                                 |   |   |
|--|---------------------------------|---|---|
|  | 小<br>学<br>滑<br>校<br>な<br>連<br>携 | B | <p>信州幼児教育支援センターの行う「園小接続」についての研修を受講し、接続がどうあるべきか理解している職員は増えてきているが、幼児教育から小学校教育への橋渡しがなだらかになる取り組みはまだ行えていない。しかし、今年度東海北陸地区私立幼稚園教育研究長野大会で「幼児期の終わりまでに育てて欲しい姿を踏まえた保育実践」の話題提供を行ったことで、「10の姿」の活用法が理解できたため、今後は園内で「10の姿」の捉え方や活用法の共通理解を図りたい。</p> <p>今年度の運動会は市内小学校4校と同日となり、入学先の運動会を見に行けなかった園児が多かった。来年度以降は日程調整をし、なるべく同日にならないようにしたい。園小の連携は十分に行えている。</p>          |
|  | 職<br>員<br>の<br>資<br>質<br>向<br>上 | A | <p>今年度は保護者の方々の協力を得て、15人の職員が1日半に渡る教育研究大会に参加させていただいた。それぞれにとっても有意義な学びの時間となり、学んだことを保育にも活かしている。</p> <p>その他の研修も常勤職員を中心に受講してきた。ただ、研修報告が滞っており、1月よりようやく回覧にて報告を行っているところである。非常勤職員は学びたい気持ちはあるが、なかなか休日に時間を作ることが難しい。ICTシステムのオンライン研修を活用するなど、自己研鑽を促していきたい。</p> <p>3学期に園内で研究保育を実施した。研究会に出席した職員それぞれが自分の意見を出し合えるような形式で行ったことで、それぞれの自己課題も見えてきたようだ。今後の伸びに期待したい。</p> |

## 5. 自己評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 評価 | 理 由   |
|----|---|
| A  | <p>子育て支援の一環で、保護者が気軽に相談したり、子育てについての話ができる環境作りとして前園長が「自実慈通信」の発行や「おしゃべり会」を今年度初めて実施した。子育てに関する専門知識を伝える通知は今まで配布することがあまりなかったが、関心を寄せる保護者もあり、発行した意義があった。また、おしゃべり会は保育中に行ったため参加者が少なかったが、様々な学年の保護者同士が語り合える場ができたことで、母親同士の繋がりができ、育児の悩みを軽減できる会となった。今後も方法を検討して継続できたら良い。</p> <p>今後は、地域の子育て支援事業を行う園として、園内だけではなく地域の未就園の親子に対しても周知し、家庭保育を行っている親子も招き、必要な支援を行っていくことも視野に入れていきたい。</p> |

## 6. 今後取り組むべき課題（すでに実施し始めていることを含む）

| 課題                         | 具体的な取り組み方法   |
|----------------------------|--|
| 家<br>庭<br>と<br>の<br>連<br>携 | <p>ICTシステムを活用することで、家庭からの連絡がし易くなり、園としても業務の軽減につながり、相互に良い結果とはなっているが、まだ操作方法についての理解が進んでいないこともあるため、マニュアルを更新していく必要がある。また、見落としがないように紙媒体でお知らせをすることもあったが、かえって分かりにくいようだ。今後は全て資料室に入れて随時見られるようにするなど、より保護者の方が扱い易い方法に変更する。</p> <p>共働きの家族が増えてことで、PTAクラス委員の役割が負担となってきている。PTA文集『いつくしみ』については、多額の予算が組まれていること、委員の負担が大きいことから事業の見直しを求める声が少数だが挙がっている。2月末～3月上旬にかけて初めて行ったPTA意識調査では、率直な意見が寄せられた。様々な意見があるものの今後もPTA組織が存続し、子どもたちの健全な育ちに繋がられる園作りにご協力いただけるよう園としてはお願いしたい。そのため、PTAの組織の簡略化と事業の見直しを来年度に向けて行っていきたい。</p> |

## 7. 学校関係者評価委員の評価

学校関係者評価委員の多くから「昨年度挙がってきた課題に取り組み改善が見られ、良好な園の運営が成されている」と「概ねA」と評価され、「時代の変化と共にPTAの変革が必要ではあるが、何故今まで行われてきたのか事業の意義を理解した上で、園として継続した方がよいことは、PTAの負担が軽減されるようにやり方を見直し継続した方がよい」とのご助言を頂いた。

保護者アンケートで出されたご指摘・ご意見を十分に理解しつつ、今後も一人一人の園児や保護者にとって何が大切かを見極めながら、園の進むべき方向を決定していくことを期待された。

## 8. 財政状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。

※ 4, 5 の評価基準

|   |           |   |                   |
|---|-----------|---|-------------------|
| A | 達成されている   | C | 取り組まれているが成果が十分でない |
| B | 概ね達成されている | D | 取り組みが感じられない       |